

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

ルノーと日産のアライアンス

ルノーと日産のアライアンス(提携)は、幅広い分野で戦略的に協力する独自のパートナーシップです。1999年の締結以来、日産はアライアンスを通じて展開地域をグローバルに広げ、経済規模においても大きく飛躍してきました。2013年のルノー・日産アライアンスのグローバル販売台数は過去最高の830万台*に達し、世界で販売された新車10台のうち1台がルノー・日産アライアンスのクルマとなりました。現在、ニッサン、インフィニティ、ダットサン、ヴェヌーシア、ルノー、ルノー・サムスン、ダチア、ラーダ(アフトワズ社)というブランドを展開しています。

*露アフトワズ社の販売台数を含む



アライアンスのビジョン

締結当初は珍しい試みと思われたアライアンスですが、すぐに自動車業界における企業提携のモデルとなりました。その後、ドイツのダイムラーや中国の東風汽車公司、インドのアショック・レイランドなども幅広い協力関係を実現しています。そして現在、業界で最も持続的な効果を発揮しています。また、ロシア国営企業ロステック社(前ロシアン・テクノロジー社)との合併会社を通じて、ロシア最大の自動車メーカーであるアフトワズ社の株式の過半数を保有しています。

アライアンスの基本的な考え方は、それぞれのブランド・アイデンティティや企業文化を尊重しつつ、株式の相互保有を通して互いの収益向上に積極的に貢献するというものです。現在ルノーは日産株の43.4%、日産はルノー株の15%を保有しています。相互に株式を保有することで互いを信頼・尊重し合い、透明性の高い組織のもとで迅速な実行、明確なアカウンタビリティ、意欲的な水準の業績を目指しています。

2014年3月17日、ルノー・日産アライアンスは、業績を向上させ、シナジーを加速させるため、研究・開発、生産技術・物流、購買、人事の主要4

機能を統合する計画を発表しました。各機能はそれぞれのアライアンス副社長が統括します。これらの機能の統合により、アライアンスは、2012年には27億ユーロであったシナジー効果を、2016年には43億ユーロにまで増加させることを見込んでいます。

アライアンスの3つの目標

アライアンスは、利益ある成長戦略を策定・実行し、以下3つの目標達成を目指しています。

- 1 各地域、各市場セグメントで、製品品質、魅力品質、販売・サービス品質の3分野において、ベスト3に入る自動車グループであるとお客様から認識されること。
- 2 おのおの得意とする特定の領域で責任あるリーダーシップを発揮し、将来的に重要な技術で、世界のベスト3に入る自動車グループになること。
- 3 高い営業利益率を維持し、常に成長することにより、両社の営業利益合計額が、世界の自動車グループ中で常に3位以内に入る企業グループになること。

▶ website

ルノーとのアライアンスに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

ルノー・日産パーチェーシングオーガニゼーション(RNPO)などの共同購買組織や共同作業グループ、プラットフォーム・部品の共通化、生産設備の相互利用などを通じ、提携によるシナジーの創出に努めています。また、アライアンスは持続可能なモビリティの領域でリーダーシップを発揮することにも注力しています。

ゼロ・エミッション領域のリーダーに

ルノー・日産アライアンスは、再生可能なエネルギーのみで充電可能な100%電気自動車(EV)の幅広いラインアップを展開している唯一の自動車メーカーです。

2013年、アライアンスは、前年比52%増となる6万6,809台のEVを販売。2013年のゼロ・エミッション車グローバル市場におけるアライアンスのシェアは、ルノーの2人乗りアーバンコミューター「トゥイジー」を含めると63%に達しました。中でも「日産リーフ」は2013年グローバル市場のシェア45%を誇り、世界で最も売れているEVとなっています。欧州では、ルノーがシェアの38.6%を占め、EV市場をリードしています。

アライアンスは、2010年12月の「日産リーフ」の発売開始から2013年末までに、世界で累計13万4,383台のゼロ・エミッション車を販売しています。これはアライアンス以外すべての自動車メーカーのEV販売台数の合計を上回る台数です。

またアライアンスは、燃料電池車(FCEV)や将来的なゼロ・エミッション戦略への取り組みも継続して進めています。

戦略的協力関係について

ルノー・日産アライアンスは、スケールメリットを拡大し、新たな地域での成長を加速させ、次世代のパワートレインや、厳しさを増す環境要件を満たす、あるいは上回る車両などの研究開発費の負担を軽減するために、パートナーとの戦略的関係を進めています。

現在、アライアンスは、ドイツのダイムラー、中国の東風自動車公司など多くの自動車メーカーに加え、インドのアショック・レイランドといった現地メーカーとも戦略的協力関係を結んでいます。

ダイムラーとの戦略的協力関係について

2010年4月、アライアンスは、ラグジュアリー・カー・メーカーであるダイムラーと戦略的な協力関係を締結しました。両グループは協力関係をより確かなものとするため、株式交換による相互出資を実施し、ダイムラーがルノー株および日産株を各3.1%、ルノーと日産がそれぞれダイムラー株を1.55%保有しています。

ダイムラーとのパートナーシップは、カルロス・ゴーンとディーター・ツェッチェが共同議長を務め、ルノー・日産アライアンスおよびダイムラーの役員で構成されるコーポレーション・コミッティによって運営されています。合意されたプロジェクトの実行を確保するのはガバナンス・ボードで、ほぼ毎月会合を行い、新たなプロジェクトの提案も行っています。この協力関係をアライアンスとして管理しているのはルノー・日産BV(RNBV)になります。2社間の協力は、2010年に協力関係を締結して以来、大きく拡大しており、またグローバルでの活動範囲もさらに広がっています。

	目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

2010年に締結されたダイムラーとルノー・日産アライアンスの戦略的協力に基づいた最初の商品として、2012年9月、ダイムラーが、ルノーの小型商用車「カンゲー」をベースとしたシティーバン「シタン」を発売しました。ルノーとダイムラーが共同で開発した4気筒1.5リッターディーゼルエンジンを搭載した「シタン」は、「カンゲー」を生産しているルノーのフランス・モーブージュ工場生産されており、その生産台数は、モーブージュ工場全体の約25%を占めています。

2013年10月には、日産のプレミアムブランドであるインフィニティから、日産とダイムラーで共同開発した4気筒2.2リッターディーゼルエンジンを搭載したスポーツセダン「インフィニティ Q50」を発売しました。「インフィニティ Q50」の2.0リッターガソリンエンジンバージョンは、同年に中国で開催された広州モーターショーにおいて公開されました。

また、ルノーとダイムラーは、スロベニアのノボメスト工場次世代「トゥインゴ」および4人乗り「スマート」の生産開始に向けた準備を行っています。2種の小型車は、共通の設計思想に基づき開発されていますが、それぞれ明確なブランド・アイデンティティを個別に持った商品です。発売は2014年後半を予定しています。

日産とダイムラーは、日産の米国テネシー州デカードにあるパワートレイン組立工場にメルセデス・ベンツ用4気筒ガソリンエンジンの生産を開始するほか、いくつかのプロジェクトを推進しています。

すべてのパートナーが、オープンマインドを維持しながら、あらゆる分野における連携の可能性を新たな視点で検討しています。同時に、ルノー・日産アライアンスとダイムラーは今後も、ベンチマークやベストプラクティスを共有できる領域について検討を続けていきます。

三菱自動車との戦略的協力関係について

2013年、ルノー・日産アライアンスは、三菱自動車工業株式会社と、商品、技術および生産能力の共用など広範囲に及ぶ協力関係を検討する計画を発表しました。これは、既存の日産と三菱自動車のパートナーシップから実現したものです。両社は、日本において軽自動車の共同開発を行う合弁会社を設立しています。

この戦略的協力関係の一環として、日産と三菱自動車は、電気自動車を含むグローバル市場向けの新しい小型セグメント車の共同開発を検討しています。また、ルノーおよび三菱自動車は、ルノーの車両をベースにした米国市場向け三菱ブランドのセダン投入などを検討しています。